

東山梨教育協議会「進路教育研究部会」

研究の経過と概要

本部会には各中学校から1名ずつの部員が所属しており、ほとんどの部員が毎年入れ替わっている。今年度は小学校からの所属部員も増え研究に広がりが見られている。

特活、道徳、総合的な学習の時間、また教科の学習においてもキャリア教育の視点を取り入れた授業について研究を行ってきた。各教科や総合的な学習の時間等において、他者と協働して問題解決に向けて努力したり、互いの意見を交換して新たな価値観を見いだしたりすることは、自立に向かう子どもの育成に不可欠である。また、学習意欲の向上や学習習慣の確立、自己有用感にも大きな影響を与えるものと考えられる。

近年、若い世代が将来の目標や勤労意欲がもてないこと、就職後の離職率が高いことが課題となっている。キャリア教育におけるスキルの育成や人間関係形成、社会形成の点から、中高の連携も重要なものとなって来る。近隣の高校教師を招聘し、研究を深める機会を話す機会を年間計画の中に設定し、研究をすすめている。

1. 部会テーマ

一人一人にあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか

～小・中における授業実践を通して～

- ・各教科の授業をキャリアの視点で実践し、資料を持ち寄り情報交換をし、相互に学習を深める。
- ・地域との連携、また職場体験について各校の実践を報告し、学び合う。
- ・近隣の高等学校教諭を招聘し、高校入試や高校生活、また、その後の進路指導などについての学習会を行う。

2. 研究計画

5月 8日 組織づくり

5月22日 研究テーマについて、研究内容、年間活動計画 県教研報告

6月12日 各校実践発表①

8月 9日 夏季学習会

高校との情報交換会 統一授業研究指導案検討

8月28日 統一授業研究（塩山南小・雨宮 正教諭）
研究授業「みんなの心に残る運動会をつくろう」

9月18日 秋季教育研究

各校実践発表②

11月27日 各校実践発表③

- 1月15日 統一授業研究授業案検討
2月 5日 統一授業研究
研究授業（笛川中・田草川富夫教諭）
2月12日 研究の総括

3. 成果と課題

体験的な学習、知識・技能を活用するキャリア教育を行い、勤労観や職業観を育てていく。各中学校では中学2年生において職場体験学習を行っているが、それぞれの学校の実践について交流し、情報交換、意見交換を行った。

例えば、職場体験の前の「電話のかけ方」「あいさつの仕方」等のマナー講座は旅行者やテレビ局など様々な組織で請け負ってくれる。また、事業所の決め方については、学校で受け継がれている事業所を利用する例が多いが、保護者が監修のもと家庭で決めさせている学校もあった。県外も含め70カ所超の事業所と連絡をとることは大変であったが、家庭で職場体験について考えることにより、将来や勤労について親子で会話をする貴重な機会となった。

また、事業所の決定は自分の興味関心に基づいて決めるべきという考えもあるが、夢や希望は変わるものであるし、自分の希望とは違っても誠実に取り組み、働くことの大切さを知ることが将来につながるだろうと、意見を交わした。

勝沼のブドウ、松里の柿と、地域に根ざした特色ある農業職場体験も行われている。時代に合わせて形は変わっても、受け入れ先の農家も地元の生徒を快く受け入れてくれ、生徒もそれに応えて意欲的に働き、地域の存続や発展にとっても大いに意義のあることである。

また、高等学校の先生との話す機会を設けたことで、高等学校におけるキャリア教育の様子や課題を伺うことができた。高等学校でのインターンシップは卒業後の就職と直接に結びついているため、中学校における職場体験とは違うこと等、視野の広がる貴重な機会となった。

小学校においても、中学校においても教育活動の様々な場面で「自己有用感（自己肯定感）をいかに育てていくか」がキャリア教育にとって大切な部分である。キャリア教育の視点を取り入れた授業についても研究を行ってきた。これまでの小学校の実践として、情報を得る手段としてのインターネットについて考える授業、運動会を成功させるために考える授業を取り上げた。様々な場面で生徒のキャリア教育をすすめる育てる価値を改めて確認できている。

4. 研究部会員

指導助言者 青柳 俊雄（松里小校長）

部長 佐久間 潤（松里中） 副部長 若月敬二郎（山梨小）

古屋浩紀（山梨南中） 筒井修子（山梨北中） 田草川富夫（笛川中）

小林誠治（塩山中） 瀧本美由紀（勝沼中） 駒井隆浩（大和中）

広瀬奈見（塩山北中） 岡村 澄人（松里小） 雨宮 正（塩山南小）

実践報告

第6学年 特別活動学習指導案

日 時 令和元年 8月28日
場 所 甲州市立塩山南小学校
対象学級 第6学年2組 32名
指 導 者 雨宮 正

1. 題材名

「みんなの心に残る運動会」をつくろう

2. 指導の目標

◇ 自主的、実践的な集団活動について自ら課題を設定することを通して、主体的に自己実現を図ろうとする態度を養う。【キャリアプランニング能力】

3. 題材設定の理由

運動会は、一年間の学校生活の中で最も大きな体育的学校行事であるとともに、児童会の縦割り組織（色組）を中心として、児童の主体性、自主性を高める好機でもある。特に最高学年である6年生は、当日はもちろんのこと、練習期間やそれ以前の準備の段階から片付けに至るまで、色組や係活動をはじめとして様々な場面で下級生に対するリーダーシップを発揮し、中心となって活動を進めていくことが求められる。その過程では、自分自身の成長を基軸としながら、「所属学年の一員として」、「最高学年として」、「色組のリーダーとして」、「係活動を中心とする縁の下の力持ちとして」など、複数の視点をもって自らの行動を考えていく必要があり、それによって、より効果的にキャリア発達を促すことができる。

しかしながら、十分に意義を確認しないままに演技や競技及び係などの実務的な活動内容をこなしていくことに重点が置かれてしまうと、教師の指導を受けて従う「やらされ感」を抱いてしまう児童がいる場合も予想される。運動会に対して主体意識をもって取り組む児童とそうでない児童の価値観のずれがあると、集団活動の質が下がり、学校行事の中で学びとる内容に大きな差が生まれてしまう。そこで、行事の取組時数の精選が進む教育情勢の中ではあるが、だからこそ、運動会の取組を始めるにあたって児童が自分自身の具体的な関わり方を考える機会を設けることが重要であると考えた。

子どもたちは6月に行われた児童会行事「みなみっこまつり」を通して、縦割り班組織の中で活動を進める立場を経験している。班ごとに、参加した「お客さん」がより一層楽しんでくれるような遊びのブースを企画し、その実現に向けて協力して準備、運営を行った。初めて下級生の前で話し合いなどを進めた児童もいたが、当日の振り返りの際には、その内容と視点に差はあるものの全員が自分の役割を果たし、課題を達成したと自己評価することができた。「みなみっこまつり」で学んだことを生かし、最高学年の自覚をもって運動会に臨むことを期待したい【巻末資料参照】。

また、1学期に行った事前調査の中では、「どのような運動会にしたいか」の設問に対して、多くの児童が、「心に残る運動会にしたい」「くいのない運動会にしたい」と回答している。そのような運動会を実現するために、どのような取り組み方をしていけばよいのかについて教師の指導を受けるだけでなく、主体的に考えて実践してほしいと願い、本課題を設定した。また、学級の仲間との話し合いを通して、より広い視野で運動会への取り組み方を考え、共通の価値観をもった力強い学級集団として、何年も心に残るかけがえのない思い出を築いてほしいと願っている。

4. 児童について

在籍は、男子18名（特別支援学級在籍児童1名含む）、女子14名、計32名。

明るく素直で、決められた役割をきちんと果たそうと努力できる児童が多い学級である。男女関係なく、協力して仕事に取り組む様子も見られるようになってきた。一方で、活動の目標や見通しを示しても教師の指示がないと主体的に関わろうとしない場面も見受けられる。「休み時間がつぶれるから」「面倒くさい」「人前に出るのがはずかしい」などの消極的な理由で、学級委員長などの特

別な役割に立候補する児童が少なく、自らの手で学校生活や学級生活をよりよくしていこうという意識が低いように感じられる。

4月に実施したQ-U調査では、「拡散型の学級集団」と判定された。子どもどうしのリレーションが十分に形成されておらず、一部の意欲的な児童が学級を引っ張っているが、共通の価値観をもって生活を送ることが難しいため、教師の指導が入らないと。反抗的ではないが、「おもしろいから」という理由でルールを逸脱してしまう児童も見られる。子どもどうしが自分の考えを伝え合いながら相互理解を深め、違いを認めながらもひとつの目標に向けて協力していけるよう、朝の会等で構成的グループエンカウンターなどを取り入れながら継続して指導してきた。

運動会について1学期末に行った調査では、「あなたはどのようなことを心がけて運動会の練習や本番に取り組みますか。思いつく限りすべて書きましょう。」という設問に対し、色組を勝利させることや自分自身の全力を出すこと、下級生に手本を見せることなど様々な回答が見られたが、どの児童も1つの視点でしか考えていなかった。本時の授業を受け、複数の視点を学ぶ必要がある。

5. キャリア教育の視点から

小学校におけるキャリア教育は、子どもたち一人ひとりが主体的に社会に関わろうとする態度や自らの選択した課題を達成する能力を養うことが重要である。具体的な将来の進路について明確に考える時期ではないが、どのような進路を選択するにしても、課題を達成するために主体的に物事に関わり、すべきことを自ら考えて実行していく力を、小学校段階から育てていかなければならない。

(1) 運動会の取組全体で育成したい能力（キャリア教育に関わって）

領域	期待する児童の姿	場面
人間関係形成・社会形成能力	・色組や係、学年グループなどの集団の中で、仲間と協力しながら、よりよい成果が得られるよう自分の役割を考え、実行しようとしている。	競技（色組・学年） 演技（学年グループ） 係活動 等
自己理解・自己管理能力	・めざす運動会像から自分の役割やすべきことを心がけ、適切に振り返りながら実践している。	全校練習（開始式含む） 各種競技練習 事前打ち合わせ 開閉会式 等
課題対応能力	・めざす運動会像を達成するために課題を考え、取り組み方の付加修正を考えている。	競技（色組・学年） 演技（学年グループ） 係活動 等
キャリアプランニング能力	・めざす運動会像を達成するために自分がすべきことについて多様な視点から選択している。	事前打ち合わせ 開始式 色組結団式 等

(2) 本時で育成したい能力

領域	期待する児童の姿
キャリアプランニング能力	・友達と意見を伝え合う中で、めざす運動会像を達成するために自分がすべきことについて考えを広げている。

また、本時で考え具体的な取組を継続的に意識できるよう、当日・片付けまでの計画一覧表を教室に掲示したり、個人のポートフォリオに掲載したりするとともに、課題に応じて修正する時間を設ける。

6. 本時の学習

(1) 日時 令和元年8月28日(水) 5校時 14:00~14:45

(2) 場所 甲州市立塩山南小学校 6年2組教室

(3) 目標

心に残る運動会を実現するために、具体的にどのようなことができるかを様々な視点で考える。

(4) 評価規準

友達の意見を生かしながら、めざす運動会像を達成するために自分がすべきことについて複数の視点で具体的な取組を書いている。

(5) 展開

過程	学習活動・引き出した子どもの反応	教師の働きかけ・支援(・) 評価(☆)
課題提示 (5分) 問いの共有 (2分)	1. 取組全体を通しての学習問題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> みんなの心に残る運動会をつくろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たち(6年生)・下級生 ・卒業生 ・保護者(家族) ・先生方 ・地域の方たち 2. 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;"> そのために、自分にできること・すべきことを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんな」という言葉が指す内容も含め、オリエンテーションの際に考えた内容をまとめて黒板に掲示する。 ・運動会のイメージが持てるよう、昨年度の運動会の写真を提示する。
自力解決 (10分)	3. 課題に対する自分の意見を考える。 ○付箋紙に自分の考えを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・「時間を守って先に並ぶ。」(規律) ・「全力で最後まで走る。」(参加態度) ・「立ち方, 座り方を見せる。」(心構え) 	<ul style="list-style-type: none"> ・班内で個別に色分けされた付箋紙を配付する。 ・要旨を意識させ, 1枚の付箋紙に短い一文で書くよう指導する。
集団解決 (8分)	4. 小グループで意見を交流する。 ○一人ひとりの発表した意見をXチャートに整理していく。 ○仲間分けしたグループにそれぞれ「インデックス」をつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・「全力」 ・「手本」 ・「きまり」等 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが自分の意見を発表しながら, 似ている意見を4つの部屋に分けていく手順を示す。 ・少数意見にも着目して分類させる。
価値の共有 (10分)	5. グループごとに「見出し」を発表し, どのような視点があるかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・出された見出しを分類して黒板にまとめる。
まとめ (8分)	6. 本時の学習を振り返る。 ○感想と, どのように運動会に取り組みたいかを個人で「アクション・プラン用紙」にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動会の取組ワークシート」を配付する。 ・複数の「インデックス」から考えよう促す。 ☆めざす運動会像を達成するために自分がすべきことを複数の視点で具体的に書いているか。 [ワークシート]

7. 評価の具体

Aの姿	評価規準	Cの児童への手だて
複数の「インデックス」を選び、それらを用いて具体的な取組を書いている。(3つ以上)	2つ以上の「インデックス」を選び、それらを用いて具体的な取組を書いている。	板書した「インデックス」から別の視点を選ぶよう声をかけるとともに、その具体的な取組が考えられない場合は、必要に応じて友達の例を紹介する。
評価方法 ワークシート「1. わたしのアクション・プラン」の記述内容		

8. 板書計画

みんなの心に残る運動会をつくろう

➡ 自分たち（6年） 下級生 保護者 先生方 卒業生 地域の方たち

めあて そのために、自分にできること、すべきことを考えよう。

本時で使用するワークシートの拡大

インデックス

- ・全力
- ・手本
- ・声出し…

昨年度の運動会の写真

9. 事後研究会の記録

[授業者より]

- ◎ 子どもたちが、担任の予想よりはるかに多くのインデックス（視点）を出せたので驚いた。その話合いの様子も建設的で生き生きしていた。
- 具体的な行動→抽象的なインデックス→具体的なアクションプランの区別が難しい児童が見られた。

[研究協議]

- ◎ インデックスを考える活動によって、目標にある「様々な視点」を出すことができ、アクションプランを考えることによって、目標にある「具体的に」という部分を達成できていた。
- ◎ 今回、自分ががんばろうと思う内容の視点（インデックス）を明確にしたことによって、ただ漠然と



「がんばった」だけでなく、心に残る内容が変わってくるのではないか。

- ◎ 昨年度の運動会の取組や当日の写真を掲示することにより、イメージがもてたのではないか。
- ◎ 交流することにより、意見の広がりが見られた。個人やグループ内で出されなかった視点（インデックス）が出され、それをアクション・プランに入れている児童の姿が見られた。
- ◎ 自分の思考や思いを言語化していくことは、その後のキャリア形成のうえで重要になる。中学校でも、思考の言語化が求められるので、小学校段階からしっかり積み重ねてほしい。
- 「具体的に」書くことの難しさが見られた。ひとくくりの言葉ではなく、自分の思考をきちんと言葉で表現できるよう、繰り返し投げかけていきたい。例えば、「全力」とは、どうすることがと投げかけるようなやり取りを継続していくことで、考えが具体化されていく。
- グループの意見交流で用いた「Xチャート」は4つの部屋に分ける活動だったが、4つに収まらない班も見られた。より意見の広がり表現できるようなツールの工夫を考えたい。
- 運動会の練習に限らず、今回出された視点は普段の生活から意識させたい。実際の生活場面を想起させることで、具体的な行動につなげていくことができる。

〔指導・助言〕

- ☆ 学校行事に取り組む際には、明確に「意味づけ」をすることが重要。どんな力を伸ばすのかを示していかなければならない。
- ☆ OPPを活動し、取組の様子を見通し、まとめていけるワークシートの工夫がよい。子どもたちの成長や活躍が光ったところにシールを貼るなど、負担にならない程度に教師がコメントなどを返していると意欲も持続される。
- ☆ 教師が子どもたちの「心に火をつける」仕かけをし、「やってみよう」と思わせること。それによって行事に対する取り組み方は変わってくる。

10. まとめ

特別練習日課が始まり、全校練習や色組練習などが行われる中で、6年生の子どもたちは一人一人の決めたアクションプランを意識しながら能動的に取り組もうとする様子が随所に見られた。毎朝登校後すぐに着替えなどを済ませて校庭に走り出て、グラウンド整備や石拾いをする姿。列の先頭で基本の立ち方である「南小立ち」をしてじっと背中を見せている姿。1学期のたてわり班活動では同級生に従うだけだったところを、自分から競技のこつを考えて下級生にアドバイスしている姿。決められた練習時間では足りないと、休み時間に自主的に組のメンバーを集めて特訓をしている姿。日に日に子どもたちの心が熱くなっていくのを感じた。

そして、9月28日（土）に行われた運動会では、精一杯にふりしぼった声で練り広げられた応援合戦や、一切乱れずたくましくポーズを成功させていく迫力の表現運動、児童会執行部による楽しいヒーローショーや最後の一瞬まで目が離せない代表リレーなど、数々の名場面が生まれ、保護者や地域の方、教師たちから「令和元年にふさわしい歴史に残る運動会だ」と称賛を受けた。色組の解団式で、8月の係決めの際にはあまり心を動かさなかった色組リーダーが、涙を流して組のメンバーに感謝を告げたシーンも感動的であった。どの児童も、その後の人生につながる自信を得て、心に残る運動会にできたに違いない。ただのイベントではなく、自分の取り組み方を常に意識して臨んだ成果だと考える。

11. 資料

11-2. 子どもたちの使用したOPP (ワークシート)

【2019年度6年生/学校行事&特別活動&体育/第64回運動会】

みんなの心に残る運動会をつくらう

氏名 班

1. わたしのアクション・プラン

プラン番号	インデックス	どんなことをするか (※練習を始める中で修正する場合は修正し直して書き直してください)
1	協力	組体操などおきょうぎで「ハーケン」をとる。人に知らせず、まず自分からという意識がほしいですね!
2	全力	姿勢や声など、細かいところでも真に全力を出す
3	時間	やることをすくりにやる。時間を守る
4	責任	係の仕事を責任をもてさいごまでやる。
5	声	声を出す時は、大きく、そして前を向く。
6	仕事	さいごまで自分の仕事をやる。

3. 運動会当日に向けた気合いの言葉!

悔いのないようにかんげする!

4. 運動会の取り組みを通して学んだこと・考えたこと

けん習をかかんばれれば本番も必可せいこうするということ。あきらめなければかならず、その努力が実のるといふこととこの7ヶ月で学んだ」と思ふ。あきらめなければついた。

2. わたしの取り組みのあゆみ (運動会練習特別日課)

月日	時間	取り組み内容	アクションプラン番号	評価 (◎△×)	コメント
9月10日(火)	1校時	練習開始式 全校練習①(入場)	2	◎	全力でとりくめた。すばしい!!
	2校時	高学年練習①	2	◎	全カと、扱々もかんばれた
9月11日(水)	3校時	色組結団式	6	◎	自分の仕事を最後までかんばれた
	2校時 4校時 中休み	高学年練習② (代表リレー練習) ※その後何組かの練習あり	1 2	◎ ○	気をぬいてしまった。正高に引かされた。意識がほしいですね!!
9月12日(木)	1校時	全校練習②(式・歌など)	5	◎	大きな声が出せた!!
	3校時	高学年練習③	1	◎	協力してとりくめた!
9月13日(金)	3校時	色別練習①	2	◎	協力してできた
	4校時	高学年練習④	2	◎	できた
9月17日(火)	1校時	全校練習③(式・歌など)	5	◎	かせ「新味」であまりたせなからたがいてきたたけ大きい声でできた。
	3校時	色別練習②(つな引きなど)	2	◎	細かい所まで全カかいたせた。
9月18日(木)	5校時	高学年練習⑤	1	◎	協力してできた。
	3校時	色別練習③(ハリケーンなど)	2	◎	
9月19日(木)	4校時	高学年練習⑥	1	◎	
	1校時	全校練習④(式・体操など)	2	◎	
9月20日(金)	4校時	高学年練習⑦	2	◎	「?」で引いて進行!!
	2校時	高学年練習⑧	2	◎	
9月24日(火)	3校時	色別練習④(応援タイム練習)	5	◎	
	6校時	係会議②	6	◎	
9月25日(水)	午前	運動会総練習	2	○	ベンチなどで気をぬいてしまったところがあった。
9月26日(木)	1校時	全校練習⑤(入場・式など)	4	◎	
	3校時	高学年練習⑨	1	◎	
9月27日(金)	6校時	係会議③	6	◎	
	1校時	全校練習⑥(追加練習)	3	◎	
9月28日(土)	3校時	色別練習⑤(最終練習)	4	◎	
	5校時	高学年練習⑩	2	◎	
9月29日(日)	午後	前日準備	3	◎	
9月30日(月)	終了後	色組結団式	6	◎	
10月1日(火)	1校時	運動会片付け	6	◎	

みんなの心に残る運動会をつくらう

氏名 班

1. わたしのアクション・プラン

プラン番号	インデックス	どんなことをするか (※練習を始める中で修正する場合は修正し直して書き直してください)
1	仕事	自分の係活動で自分から進んで仕事をやる
2	声	ハリケーンで六年生、四五年に声をかける。自分チームを引けるよう意識をもちたいですね!

9月10日(火)	1校時	練習開始式 全校練習①(入場)	4.5	◎	南小立ちでふらついていた。
	2校時	高学年練習①	4	◎	手いたすきないでしっかり開いた
9月11日(水)	3校時	色組結団式	4	△	司令で声が小さかった。
	2校時 4校時 中休み	高学年練習② (代表リレー練習) ※その後何組かの練習あり	4	◎	目をぬいてしまった。正高に引かされた。意識がほしいですね!!
9月12日(木)	1校時	全校練習②(式・歌など)	4.5	◎	
	3校時	高学年練習③	4	◎	
9月13日(金)	3校時	色別練習①	2.5	○	声と声をだしてタイムを速くしたい。
	4校時	高学年練習④	4	◎	
9月24日(火)	6校時	係会議①	1.4	◎	
	1校時	全校練習③(式・歌など)	4.5	◎	

みんなの心に残る運動会をつくらう



_____ 班
 氏名 _____
 肩 _____

1. わたしのアクション・プラン

プラン番号	インデックス	どんなことをするか (※詳細な内容を記入する場合は別シートの活用を希望します)
1	手本	みんなの前で南小立ちをできるだけきれいに立っている。
2	時間	全体練習での時間をまもる。
3	全力	なにこにともせめて色別練習の手伝いをする。
4	姿勢	南小立ちをつねにキープするようにする。
5	声	色別練習のときに毎回先生にすぐ声が出ているといわれるようにする。
6	責任	自分の仕事をあらかじめ最後まで責任をもてる。

3. 運動会当日に向けた気合いの言葉！

運動会を全力でとくむ。くいの残らぬようがんばる。最後の運動で優勝したいけれどいい思い出にしよう。

4. 運動会の取り組みを通して学んだこと・考えたこと

運動会の取り組みを通して学んだことはあいつの時分がけいまのありがたさを知りましたなどと言ったこと。頭を下げることを学び考えたことは授業のあいつ。

2. わたしの取り組みのあゆみ (運動会練習特別日課)

月日	時間	取り組み内容	アクションプラン番号	評価 (◎△×)	コメント
9月10日(火)	1校時	練習開始式	3,4	◎	南小立ちをしっかりと
	2校時	全校練習①(入場)	3	◎	
	3校時	色組結団式	5	◎	声をそろえて大きな声を出す
9月11日(水)	2校時	高学年練習②	3	◎	
	中休み	(代表リレー練習) ※その後の練習あり	3	◎	
9月12日(木)	1校時	全校練習②(式・歌など)	3	◎	全方で声を出したえいよかた
	3校時	高学年練習③	3	◎	
	3校時	色別練習①	5	◎	
9月13日(金)	4校時	高学年練習④	3	◎	
	6校時	係会議①	3	◎	
	1校時	全校練習③(式・歌など)	5	△	式はしっかりできたけれど歌で先生の声にまかせたかなって練習員が言っていた
9月17日(火)	3校時	色別練習②(つな引きなど)	3	◎	声を出してよはつた
	5校時	高学年練習⑤	3	◎	
	3校時	色別練習③(ハリケーンなど)	3	◎	
9月18日(水)	4校時	高学年練習⑥	3	◎	
	1校時	全校練習④(式・体操など)	3	◎	
9月19日(木)	4校時	高学年練習⑦	3	◎	
	2校時	高学年練習⑧	3	◎	
9月20日(金)	3校時	色別練習④(応援タイム練習)	5	◎	
	6校時	係会議②	3	◎	
	9月24日(火)	午前	運動会総練習	1,2,3,4,5,6	◎
9月25日(水)	1校時	全校練習⑤(入場・式など)	3,4,6	◎	
	3校時	高学年練習⑨	3,4,6	◎	
	6校時	係会議③	3,4,6	◎	
9月26日(木)	1校時	全校練習⑥(追加練習)	3,4,6	◎	
	3校時	色別練習⑤(最終練習)	3,4,6	◎	
	5校時	高学年練習⑩	3,4,6	◎	
9月27日(金)	午後	前日準備	3,4,6	◎	

みんなの心に残る運動会をつくらう



_____ 班
 氏名 _____
 肩 _____

1. わたしのアクション・プラン

プラン番号	インデックス	どんなことをするか (※詳細な内容を記入する場合は別シートの活用を希望します)
1	応援	当日大きな声できょうせいに参加している人にとくように応援する。
2	下級生	みんなをまとめることができるように大きな声で指示をする。

2. わたしの取り組みのあゆみ (運動会練習特別日課)

月日	時間	取り組み内容	アクションプラン番号	評価 (◎△×)	コメント
9月10日(火)	1校時	練習開始式	2	◎	しっかりみんなをまとめることができた。だからつなつた。アツクだった。
	2校時	高学年練習①	4	◎	まわしかしたりもしかりでよかったから。これはまわしかをまわせた。
	3校時	色組結団式	1	◎	応援歌を大きな声で歌うたから。これは、歌いながら声を出す。
9月11日(水)	2校時	高学年練習②	4	◎	
	中休み	(代表リレー練習) ※その後の練習あり	4	◎	
9月12日(木)	1校時	全校練習②(式・歌など)	1	◎	
	3校時	高学年練習③	4	◎	
	3校時	色別練習①	4,5	◎	
9月13日(金)	4校時	高学年練習④	4	◎	
	6校時	係会議①	6	◎	
	1校時	全校練習③(式・歌など)	1	◎	
9月17日(火)	3校時	色別練習②	1	◎	

●参考文献

諸富祥彦『「7つの力」を育てるキャリア教育—小学校から中学・高校まで』（図書文化社，2007年）

浦上昌則『キャリア教育へのセカンド・オピニオン』（北大路書房，2010年）

田村学・黒上晴夫『考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』（小学館，2013年）

有村久春『平成29年改訂小学校教育課程実践講座 特別活動』（ぎょうせい，2017年）

田中博之『アクティブ・ラーニング『深い学び』実践の手引き—新学習指導要領のねらいを実現する授業改善』（教育開発研究所，2017年）

田村学『深い学び』（東洋館出版社，2018年）